

「ゆるり短歌会」第十四回 平成二十九年四月十四日（金）

一 枝に咲く木蓮も良し風に散り地にある花も美しくあり 坂口まゆみ

二 訃報きき涙々がとぎれなし浮かぶはちやめつけたつぷりの顔

三 牧水の生家に並びて紫もくれん屋根を守ると花の咲きをり 堀越照代

四 雨の止み雲の去りゆく大空に桜の花は今さかりなり

五 体内で抗菌薬も点滴もききめのなくて自力で治せ 立川志乃

六 こぶし咲く道にユラユラゆれていた十八の息子を今も忘れず

七 仏桑華の葉を巻き籠るものゐたり俄かの雨にくろぐろ融ける 高山美智子

八 左手に夫の育てし花なればまひまひとても生かせざりしよ

九 五十過ぎ夫の独立口にする深き所に根を張りたらん 興梶恵子

十 しゃくなげを写真に撮りて気付きたる陽を受けたるは明るき笑顔

十一 一輪の想いくすぐる赤いバラ忘れないでと語りかけてる 稲葉あつこ

十二 一節だけ心に残り読み終えず海があまりに青いのです

十三 何するも のさんよだきー 宮崎の我てげてげなれど今日は働く

十四 持ち来たる石楠花根付き庭隅に紅うすくふくよかに咲く 戸部恵美子

十五 母に添ふ今年生まれの岬馬初嘶きを聞く日も近し